



「徐染」という言葉と文字が、日常当たり前にまかり通る町がある。「人っ子一人いない」町が存在する。この先何十年も「シーベルト」を気にしながら暮らす人がいる。目には見えない放射能に怯えながら、未来を語ることを避け、今を堪え忍ぶ人々がいる。せめて、毎月十一日ぐらいは被災地への祈りを続けたい。

見えないものへの恐怖

帰還困難区域避難住民 24500人
京都には福島から避難してきている人たちが多く、夏休みには家族に会うために一時的に福島へ帰る人もいと聞かすが、帰る場所がない人々もいるという。



祈りよ届け



先月号でお知らせしていた被災地で咲いた向日葵は、今私たちの復興の願いにまるで答えるようにぐんぐん伸びています。(右の写真)そして、花芽を見せ始めています。(左の写真)その姿の逞しさに、被災者の方々の姿が重なります。全ての向日葵が天に向かって咲き誇る日はそう遠くないでしょう。多くの人にこの向日葵を見て、「被災地を忘れない」決意をして欲しいと願うばかりです。

東日本大震災被災地応援実行委員会

6月の活動報告

体育祭での募金活動

ご協力有り難うございました。

頂いた募金は今年のクリスマスプレゼント購入に使います。

保護者懇話会では

被災地の水産加工業者を支援するための復幸缶詰の販売を行いました。保護者本部の役員の方々が会場で精力的に販売して頂いたおかげで予想以上の販売ができました。売上金はこのプロジェクトを行っている「希望の環」に収め、缶詰工場建設などに役立てて頂きます。お買い上げ頂いた保護者と、教職員の方々に御礼申し上げます。

オーフェンスケールでも

展示を行いました。被災地の現状を知ってもらうための写真や、被災地の多くの人たちから頂いたお礼状などを紹介しました。また、オリジナルグッズの販売も行いました。

秋までの活動予定

7月末には立命館コースの海外研修・ウルスラ姉妹校訪問が行われます。例年海外への発信としてホームステイ先へのお土産に、被災地への応援の願いとしてオリジナルグッズも加えて頂いています。今年もお願いします。

向日葵が咲いたら、向日葵の挿し絵のオリジナルタオルの販売を開始します。完売を目指したいのでご協力お願い致します。1枚500円です。

被災地の多くは優れた漁場でした。
文化祭では海産物の販売を行いたいと思います。

